

第3回神戸の都心の『未来の姿』検討委員会会議録

平成26年9月3日

第3回 神戸の都心の『未来の姿』検討委員会

1 日時 平成26年9月3日(水) 午前9時59分～午前11時55分

2 場所 神戸市役所1号館14階 大会議室

3 出席委員 (34人)

(1) 地元組織代表

浅木隆子	小田俱義
久野茂樹	坂本罔昭
清水俊博	曹英生
富岡良典(代理:松岡)	永田耕一
奈良山貴士	古川勝
松添雄介	三浦繁男(代理:春名)

(2) 市民代表

岩佐光一朗	玉田はる代
-------	-------

(3) 交通事業者代表

庄健介	平野剛
宮本一郎	湯山佐世子
横山章	上杉雅彦(代理:中野)

(4) 経済団体代表

植村一仁	植村武雄
松田茂樹	

(5) 学識経験者

小谷通泰	加藤恵正
小浦久子	末包伸吾
柚木和代(代理:木下)	関根千佳
中尾正喜	長町志穂

オブザーバー(3人)

林良太郎(代理:辻脇)
笠尾卓朗
杉山公一(代理:小畑)

4 議事

(1) 第2回検討委員会の振り返り及び会議資料の説明

(2) 「将来ビジョンのコンセプト（案）」について

(3) 「将来ビジョンの具体的施策を検討する上で考慮すべき事項」についての意交換

5 議事の内容 別紙のとおり

1. 開会

○三島都心三宮再整備担当部長

皆さん、おはようございます。本日は、大変お忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

まず、開会に先立ちまして、委員の皆様にご確認させていただきたいと思っております。

本日、報道機関より当委員会の会議風景を撮影したい旨、申し入れがございましたので、議事に入るまでということ、許可したいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声)

○三島都心三宮再整備担当部長

異議がないようでございますので、撮影を許可することといたします。

報道機関の方は、撮影をしていただいて結構です。

○三島都心三宮再整備担当部長

それでは、ただいまより第3回 神戸の都心の『未来の姿』検討委員会を開催いたします。

私は、住宅都市局計画部の都心三宮再整備担当部長の三島と申します。事務局といたしまして進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

2. 委員の紹介

○三島都心三宮再整備担当部長

それでは、これより委員会を進めるにあたりまして、まず、お手元の資料を確認させていただきます。

次第と会議資料につきましては、事前に送付させていただいております。

資料送付については、2度に分割しての送付となりましたことを、ここで深くお詫び申し上げます。

本日は、資料をお忘れの方がいらっしゃいましたら、お申し出ください。

それと、本日の配付資料といたしましては、本日言い足りなかつたご意見を記入していただく用紙を配付しております。

また、市長との対話フォーラムのチラシをお配りしております。

その他といたしまして、先日の8月24日に開催いたしました、神戸の未来のまちづくり300人会議にて参加者から提示された「今後の神戸にとって最も大切なもの」のご意見をコピーしたものと、その前に、インターネットで、「これからの神戸の都心が誇るべき神戸らしさとは」という問いで意見募集をした、そのときにいただいたご意見、そして、第

2回検討委員会にて委員の皆様からいただいたご意見をまとめ、整理した資料をファイルにして回覧させていただいております。

続きまして、本日ご出席いただいております委員について、ご紹介させていただきたいと思っております。

委員のご紹介につきましては、資料1の検討委員会委員名簿をご覧くださいことで、省略させていただきたいと思っております。

なお、欠席者の報告と代理で出席いただいている方のみ紹介させていただきたいと思っております。

本日は、地元組織代表の久利委員と学識経験者の牧委員がご欠席でございます。

また、地元組織代表の富岡委員の代理として、松岡様

三浦委員の代理として、春名様

交通事業者代表の上杉委員の代理として、中野様

学識経験者の柚木委員の代理として、木下様にご出席いただいております。

また、オブザーバーとして参加いただく方をご紹介いたします。

国土交通省の辻脇様です。

兵庫県の笠尾様です。

兵庫県警察本部の小畑様です。

報道機関の撮影は、ここまでとさせていただきます。

ここからは、加藤会長に進行をお願いしたいと思います。

2. 議事

(1) 第2回検討委員会の振り返り及び会議資料の説明

(2) 「将来ビジョンのコンセプト(案)」について

(3) 「将来ビジョンの具体的施策を検討する上で考慮すべき事項」についての意見交換

○会長

皆さん、おはようございます。第3回目となりましたけれども、これまでと同様活発なご意見、議論をお願いしたいと思います。

第2回目から今回にかけていろんな動きがありました。三島さんからお話がありましたように、「神戸の未来のまちづくり300人会議」という大きなイベントを開催し、そこでさまざまな方のご意見を聴取しました。今日の資料も、非常にうまくまとめていらっしゃると思います。この会議をベースに、多くの方から意見を聞きながら、神戸の都心の未来の姿を構想していくということで、議論としてはよい過程を経て、積み上げられているという印象です。

それと、先日、三宮に関しては、構想会議がスタートしました。小谷先生を会長に、三宮そのものの議論もスタートするという中で、今日第3回目を迎えるということになりました。

す。我々は、神戸の都心を、やや広域的にとらえて、そのあり方を考えていきたいと思いますというスタンスで議論をしているわけですが、資料をご覧いただいたらわかりますように、都心といっても非常に多様で、その中でどのような神戸の都心というモザイクを光らせるのか、そういう方向に持っていくのかという議論になればいいと思っています。

早速でございますけれども、議事の次第に沿って進行をさせていただきたいと思っております。

まず、議事次第(1)の第2回検討委員会の振り返り及び会議資料の説明を事務局のほうでお願いいたします。

○若林都心三宮再整備担当課長

住宅都市局計画課都心三宮再生整備担当課長の若林でございます。

議事次第(1)第2回検討委員会の振り返り及び会議資料の説明をさせていただきます。

それでは、資料2をお開きいただきたいと思います。第2回検討委員会の議事要旨をつけています。

第2回を振り返りますと、神戸について、誇りに思っていることや今後伸ばしていきたい神戸のアピールポイントなど、これからの神戸の都心を考える上で最も大切にすべき「神戸らしさ」や「神戸の強み」についてご意見をいただきました。意見の内容につきましては、事前に配付させていただきましたので、ここでの詳しい説明は割愛させていただきます。

資料3をお開きください。A3の資料です。資料3は、将来ビジョンのコンセプト(案)とそれを導き出した流れについてご説明させていただいている資料です。

この紙面の右側が導き出しました将来ビジョンのコンセプト(案)で、左側がそれを導き出しました流れです。

まず、左側の上部、「主観的なデータ」ですが、第2回検討委員会やホームページ等での意見募集、さらに先日開催しました「神戸の未来のまちづくり300人会議」など、これまで皆様方からいただいたご意見で、「神戸らしさ」「神戸の強み」といった点を一つ一つ整理、分類させていただきまして、将来ビジョンにおいて、神戸の都心が今後進むべき方向性のキーワードを導き出したというものです。

左側の下、客観的データについてですが、神戸の都心を大胆に活性化するという目的のもと、現状の神戸における内部環境ということで、強み(Strength)と弱み(Weakness)、また、外部環境ということで、機会(Opportunity)と脅威(Threat)という項目を客観的データに基づき抽出しました。この4つの項目の、英語の頭文字をとったSWOT分析という手法がございますが、その手法で分析して、取り組むべき戦略や方向性を導いたものです。

皆様からいただいたご意見に基づく主観的データとSWOT分析による客観的データを整理することによって導き出した結果が、右側の「将来ビジョンのコンセプト(案)」ということで、今回、お示ししています。

この将来ビジョンのコンセプト(案)の内容としては、右に書かれていますとおり、

「神戸の良さ、強み、らしさを前面に押し出し伸ばしていくことで、『人々を魅了するクリエイティブな活動と個性あるライフスタイルを実現できる都市』としてこれからも選ばれ続け、神戸市域のみならずその周囲も牽引する都心を目指す」ということです。

資料4をお開きください。資料4は、先ほどご説明しました主観的データ、すなわち第2回検討委員会でのご意見、ホームページ等での意見募集の結果、「神戸の未来のまちづくり300人会議」などでいただいたご意見をどのように整理したかという過程をお示したものです。

このように、たくさんいただいたご意見を一つ一つ整理、分類して、まず共通項となる23のキーワードを導き出しました。資料4-3というページに、キーワードが23ほど並んでいますが、これを集約、整理し、右側にあるとおり15の方向性という形でまとめています。

なお、今、回覧しておりますピンクの紙ファイルは、このデータのさらにもととなる、ホームページでの意見募集の生のデータのコピー、また300人会議でそれぞれ皆様に書いていただいたカードのコピー、それに加えて、第2回検討委員会等でいただきましたご意見も含めた整理をしている過程の資料です。

資料5をお開きください。資料5は、先ほど申しましたSWOT分析によるデータ整理の流れや内容をお示ししています。SWOT分析の概要につきましては、先ほど申したとおりで、細かな客観的データの積み上げの資料は事前に配付させていただいておりますので、ここでの詳しい説明は割愛させていただきます。

ここで、先日開催させていただきました「神戸の未来まちづくり300人会議」の様子、また意見募集の結果につきまして、ご報告させていただきます。前面のスクリーンをご覧くださいませでしょうか。

「神戸の未来のまちづくり300人会議」の様子です。8月24日（日）午後、ハーバーランドにある「THE MARCUS SQUARE KOBE（ザ マーカスクエア 神戸）」におきまして、327名もの皆様にご参加いただきまして、300人会議を開催させていただきました。この300人会議では、ワールド・カフェというワークショップ方式を用いまして、神戸の未来にとって最も大切なものを考えていただきました。

参加者の構成ですが、男性が6割、女性が4割。また、最少年齢は7歳のお子さまから最高89歳のご高齢の方まで、さまざまな年齢層の方にご参加いただき、カフェでくつろぎながら会話するような、楽しい雰囲気の中で皆さんにたくさん語り合ってくださいました。

こういうカフェスタイルで皆さんに対話、語り合いをしていただいた後に、皆さんの意見もいろいろ話を聞いた上で、神戸の未来にとって最も大切なものをそれぞれカードに書いていただき、それを、神戸の都心をあらわした横断幕に張りつけていただきました。いただいたたくさんのご意見は、後日、事務局で整理、分類しました。

それと、ホームページでの意見募集の結果ですが、合計で190件ほどのご意見をいただ

きました。こちらについても、記載された内容を分類、整理しています。

続いて資料6、A3の資料です。資料6は将来ビジョンの枠組みをお示しした案です。表の一番上には、先ほど申しあげました将来ビジョンのコンセプト（案）を記載しています。

この表については、前回の検討委員会でもお示ししたとおり、これまで皆様からいただいた、「私が思う神戸の都心の未来の姿」に関する意見などを、テキストマイニングという手法を用いて、「景観」「にぎわい」「交通・回遊性」「環境・福祉」「観光・文化」「産業」「防災」などの施策分野に分けたものを横軸としました。また、皆様から、神戸の都心にはさまざまな個性を持ったエリアがあるというご意見をいただいていますので、「新神戸」「北野」「三宮」「旧居留地」「元町」「神戸・ハーバーランド」といった形でエリアに分けたものを縦軸にして、表にしています。

また、個々のエリアだけにおさまらない事項、エリア間に関連する事項、また都心全体のネットワークの観点ということについては、この表の上部に、「エリア別で考えること以外の事項」という欄に記載できるようにしています。

将来ビジョンの作成イメージとしては、このような表を順次埋めていくという形をもちまして、横軸にいろいろな施策を示し、これを各エリアでまとめていくようなイメージです。右のほうに、「とりまとめて視覚化」と書いていますが、各エリアごとにとりまとめて、例えば、図とか、パースなどに示すことによって、視覚的にわかりやすい将来像を作成できればと、考えています。

既にこの表に幾らか記載している意見については、これまでもいろいろご議論いただいています。本日の会議を有意義に進めていただきたいということで、これまでの検討委員会におきましていただいたご意見については、記載していますが、表を見ていただいておりますのとおり、まだまだあいている箇所が多くあります。つきましては、これまでの検討委員会での発言内容と重ならない、新しい観点からのご意見や、ご提案をぜひいただけたらと、考えています。

今後は、本日の検討委員会でいただいたご意見、また、ホームページ等での意見募集、まちづくり300人会議でいただいたご意見などといったものをこの表の中に記載していきたい。そして、それらをもとに、神戸市のほうでビジョンの枠組みの内容をさらに検討していきたいと考えています。

次第（1）の第2回検討委員会の振り返り及び会議資料の説明については、以上です。

その上で、本日は、次第（2）、（3）についてご意見をいただきたいと思っています。

一つは、資料3の将来ビジョンのコンセプト（案）について、神戸市のほうでこういう形でお示ししていますが、これについて過不足している観点や、ここは少し違うということで修正すべき点などをご意見なり、ご議論をいただけたらと思っています。

もう一つは、今ご説明させていただきましたこの将来ビジョンの枠組み（案）について、

枠組み自体の修正点、さらにこの表であいているところ、具体的施策を検討する上で考慮すべき事項とかアイデアについて、新しい観点でのご意見をいただけたらと、思っています。

私からの説明は以上です。よろしく申し上げます。

○会長

ありがとうございました。これまでたくさんのご意見を伺ったものをこういう形で整理していただいたわけであります。資料6が、これまで第1回と第2回で議論いただいた、プロセスで出てきた表だと思いますが、これを充実していく、皆さんのご意見でより厚みのあるものにしていくということが、第3回目の今日の会議の重要なポイントでもあると思います。これまで将来ビジョンのコンセプトが必要だろうということにも皆さんからご意見をいただいていたわけであります。

コンセプトのつくり方は2つぐらい考えられると思います。広告会社にさっとつくっていただくというのが一つの方法です。しかし、我々は、市民の皆さんの議論をきちんと聞きながら、この会議でも議論しつつ全体をつくり上げていこうというプロセスをたどっていますので、そういう意味で、300人会議や、Webでの意見収集も含め、皆さんからたくさんのご意見を伺う中で、それを抽出してコンセプトを考えるという作業を事務局のほうでしていただいたということであります。その大変な作業の成果が資料3にまとめられているわけです。これまでのデータをSWOT分析という、経営学などで使う手法も絡めながら、資料3の右側、「将来ビジョンのコンセプト（案）」というところにたどり着いているということであります。ですから、市民の皆さん、この会議の意見を聴取した結果としてこの表現になったとお考えいただいたらいいと思います。

ただ、この表現や文章そのものは、決して決まったものではなくて、ぜひとも皆さんのほうから、もっとこういう表現が盛り込まれるべきだとか、コンセプトについても、皆さんの視点からご意見を伺えればと思っています。

今日は、この資料3の将来ビジョンのコンセプト（案）と、資料6の、これまでこの委員会で積み上げてきた、都心のイメージ・全体像を、マトリックスにどのように厚みを持たせるのかというあたりからご意見を伺えればと考えています。

○委員

資料3の表についてお聞きしたいのですが、主観的なデータに基づく方向性の欄の色分けの意味はどういうことですか。

○事務局

もともとこの15個のデータにたどり着いた後に、仲間を分類しようということで、同じような観点でまとめられそうなものを色分けしています。これら観点を抽出して、右側の文章へつなげているというふうに思っただけであればと思いますが、特にそれほど意図した色ではなくて、少し近いものを集めています。

○会長

よろしいでしょうか。それでは、ご質問でも結構です。どうぞご遠慮なく。

○委員

コンセプトの中で、「陸海空の優れた交通アクセスのもと、歩いて楽しめる範囲に点在する個性豊かな場所」という表現がありますが、私は、交通の観点からコメントさせていただきたいと思います。確かに、神戸は、新幹線の駅があり、鉄道が整備され、港湾・空港がありということで、外部からのアクセスはいいのですが、その反面、都心の内部の移動はどうかというと、せっかく個性豊かな地区があるにもかかわらず、ネットワーク化されていない。歩いて楽しめる範囲という話はいいことですが、コンパクトとは言いつつ、2キロぐらいの範囲に広がっています。それから、資料6を見ても、交通・回遊性のところで、「徒歩で回遊して、途中で休憩できるスペースがあって、安全・安心に回遊できる。人優先だ」ということを述べられる一方で、例えば、LRTや、BRTの導入といったものを希望されています。

資料5、5-21や、5-23を見てみますと、これは私の研究室でやった調査でもそうでしたが、5-21で、「回遊性が低い来訪者の行動」ということで、実態としては三宮を中心に元町か北野ぐらしか動いていない。一方で、これは非常におもしろいのですが、5-23で、かつて北野のほうから三宮、元町を通過して神戸のほうに市電が走っていて、そういった地区が実は昔はつながっていたことがわかります。この辺が、交通だけを見ても、一つ問題点と解決の方向性を示唆しているのではないかと思います。

それから、外部からのアクセスについては、陸はいいにしても、海・空というのは、かなり頑張らないといけない。これから港湾・空港ももっともっと活性化していく必要があると思います。

○会長

ありがとうございます。

この資料6は、エリア別に分かれていまして、第1回目、第2回目で議論していただいた、表頭の分類で、枠組みの中身を議論できないかということで事務局は考えているようですが、このあたりはどうでしょうか。

○委員

北野に関していいますと、今、オリーブの木を中心にまちづくりを始めています。というのは、明治時代に、日本初のオリーブ園が、今の北野ホテルのあたりから北野工房、NHKの上、あの一帯にありました。そこで初めてオリーブオイルが抽出されて日本じゅうに広まったという資料が出てきまして、場所も特定されましたので、まちづくりの一環として北野町に、オリーブの木を植えています。明治時代のものが1本だけ楠公さんに残っています。それと、東遊園地に震災の後に亡くなられた新谷琇紀先生が、復興のためにとということでローマから持ってこられた木があります。今、小豆島から持ってきた木も合わ

せて風見鶏の前に植えてあります。それで皆さんから基金を集めまして、北野町から神戸にということで、オリーブの木の配布などを実施しています。

それと同時に、北野町は、夜間のライトアップを今年からもう少し回遊性を持たせるため、いいものをつくろうということで実施しています。

また、至るところで看板がひどくなってきています。路地のところは、お客さんが来ないということで、表へ看板を出しましたので、その看板を反対に、出してもいい、自分の敷地内に出せる看板で、おしゃれなものをと。海外に行きますと、看板を写しているだけで楽しいまちというのがありますので、そういうまちに変えていこうということで、指導と、一部補助金を出して、いいアイデアで、おしゃれな看板に来年度は全部つけかえていこうとしています。

それをしますと、商売をしている外国の人たちで、すぐ汚い看板を出したがる人がいるんですね。その人たちにこの間、問いかけをしまして、商売をしている外国人の方たちでグループをつくり、代表を出して、守る会のほうで一緒に行動しております。例えば、カレー屋さんとかも、お店の入り口でケーキを売ったりと、いろいろしている人が出てきていますので、そういう人たちを統一するために、頭ごなしに言うのではなく、昔から北野町に住んでいる外国の人もありますから、一緒に共存していくために、こういうルールを一緒に作って、一緒に守りましょうということで始めました。

「にぎわい」についてですが、8月30日に、北野工房でホームカミングデーを兼ねましてしまして、「北野こくさい夏祭り」を開催し、約3,000人近い人に来ていただきました。それと、5月にはインフィオラータという、約30万人が来る花のイベントを開催しています。10月にはジャズストリートがあります。また、去年からハローウィンの時には、まちを挙げてパーティーをしております。それとクリスマスのライトアップです。そのぐらいが「にぎわい」です。

「環境・福祉」では、クリーン作戦をずっと続けております。また、ユニバーサルデザインについても、坂道や階段があるのは当たり前ですので、住民の手でちょっと親切にするとか、手伝ってあげるといようなことをすることによって、ユニバーサルなまちにしていこうとしております。

「観光」は、北野は観光地ですので、今、外国人が増えてきていることに対し、言葉の問題をクリアするように、各国の言葉で書いたり、コンシェルジュのようなちょっと説明できる人たちの組織をつくりつつあります。

「防災」の面ですけど、坂道と細い道というのが北野の特色ですが、いざ火事になると消火活動が大変ですので、まず火事を出さないということで、みんなでグループ分けをして、道を歩くときに、どこかに段ボールが置いてないかというふうにチェックできるよう、各自治会にチェックシートを持ってもらいました。月1回の会議のときには、こういうことが気になったということ報告してもらっています。このように自治会単位でチェック

するような組織をつくり、「防災訓練」の一步手前からの活動をしています。

○会長

北野のほうは、最近は随分人も増え始めたようですね。

○委員

人が戻ってきています。

○会長

将来ビジョンのコンセプト「個性あるライフスタイル」と絡めながら、新しく入ってきた人たちと何かつくり上げていこうというお考えはありますか。

○委員

野球のダルビッシュ選手のお父さんがダルビッシュ記念館を開いたり、小さい結婚式場、が次々できたり、ウェディングも人を呼ぶというところでは一つですし、異人館もそれぞれ工夫していかに人に入ってもらおうかということをしています。また、今、神戸市のほうで異人館ないし北野町なんかで、ホテルでなく部屋で泊まれるような施設ができないかということを考えられていて、うまくいけば異人館に宿泊できるような、そういう企画もできると思います。

○委員

私は、夜間景観が専門ですので、そういった視点から意見をさせていただこうと思いません。先ほど交通について、海と空がまだまだだという話をされていましたが、港湾都市という魅力で勝負している世界の各都市は、大型の観光船だけでなく、小さな船に乗って、ちょっと港を見られるようなものがありまして、それに乗るのが一つの楽しみになっているというパターンがあります。そういった意味で、神戸は、西は兵庫津のほうもありますし、うまくやればH A T神戸のほうまでつないで、港湾にもう少しポイントを置きながら水上交通と一緒にやれるのではないかと思います。そういったときに、各都市で夜は非常に目玉になっていまして、海上から見える近景の施設の魅力というのは、まだまだやれることがあると思います。

資料5の43ページ、44ページですが、これは中突堤及び新港突堤の改修ということで、今後の改修計画の様子が出ています。こういったときに、できれば住宅系でない、にぎわい施設、美術館や図書館など、公共的な力のあるものが建ってほしいというのはもちろんですが、新港第3突堤のイメージパースにあるような小さな港湾施設ですね、乗り場の建物とか、そういったものでも、海外で見ると、前回事例に出ていましたハーフェンシティやコペンハーゲンといったところでは、小さな建物でも夜になるとすごいポイントになっていますので、新しくつくるものがある場合は、特殊な大げさなことをせずとも一個一個港の大事な宝石になるように官民の力を合わせてつくってほしいと思います。建築物については、今、神戸には、近代建築、北野の異人館など、過去の人たちによってつくられた大事にできるものがたくさんありますが、次の100年、200年を考えますと、今建て

るものも次の世代に残っていくものですから、そういう意味で、珠玉の建築物を勇気を持ってきっちりつくっていく、それを夜間景観としても期待したいと思います。

○会長

このエリア別で書かれている表には、海からの景観、ウォーターフロントは明示されていないのですが、そういう意味では、ウォーターフロントもこの中に入れつつというようなお話だったかもわかりませんね。

○委員

港町では横浜か神戸かということがまだ絶対的に日本の中であるわけですから、ウォーターフロントを入れないわけにはいかないと思います。

○会長

海からの景観というと、経済同友会でのプロジェクトで、確か船を走らされたご経験がございますね。

○委員

今、会長がおっしゃったのは、景観も含めて港を活性化するというところで、私が、同友会の代表幹事をしていましたときに、神戸港はまさに瀬戸内の東の端でありますので、神戸港を母港とする瀬戸内クルーズの振興を提言し、テスト・クルーズも実施しました。ガントリークレーンが並ぶ物流港としての神戸も頑張ってもらいたいけれども、それだけではなくて、旅客というものも意識して、また、観光資源として特にインバウンド対策として港の整備もし、白い旅客船が似合う港になってほしい。クルーズというのは、ホテル業でもありますし、あるいはレストラン業でもあります。また、造船業にもかかわりますので、神戸の海事産業クラスターの核として瀬戸内クルーズ事業を展開してはどうかと提言しました。

今、みなと総局でもいろいろ知恵を出されて、新港の三突の整備もされているし、先日、新聞では、大きな船がつけるように、水深を深くするというような記事もありましたから、その方向に行っていると思いますけれども、やはり旅客船というのも十分意識すべきではないかと思います。少なくとも瀬戸内をアピールして、その母港になれば、海外からのお客様を呼ぶには大変な魅力になると思います。

それと、委員会の名前が「『未来の姿』検討委員会」だから、どうしてもこういう静止画的なコンセプトになるのかなと思います。都市というか、まちは生き物ですから、放つといっても、どんどん変わっていくわけです。そのような点でいいますと、将来の姿として、あるイメージを持って「将来の姿です」というのはいいけれども、その方向に進めていく手だてというのが大事で、いろんなプログラムや、予測の手法があると思いますけれども、世にいうダイナミックモデルといいますか、そして、「最終的にこうなったらいい」ということで考えるべきだと思います。といいますのは、今日示されているコンセプトは、何も都心部だけの話じゃないし、昔から、神戸は、アスリートタウンと言ったり、今はデザ

イン都市と言ったり、アーバンリゾートと言ったこともあるし、ファッション都市とか、たびたびそういうキャッチフレーズみたいなことは言っておられて、それと余りレベル的に変わらないのではないかと思います。

「都心部」の定義の問題もありますが、都心部を意識しているならば、ここに書いておられるようなまちにするために、都心部はどう位置づけられて、どういう役割を果たすのかということを決めて、それをこの委員会ではコンセプトにすべきではないだろうかと思えます。ただ、「未来の姿」ということですから、あるいは静止画でもいいのかもしれないとも思えます。しかし、もう少しアクティブに、ダイナミックに、ポジティブにアプローチするというようなところでの都心部の役割、位置づけというものをコンセプトとして表現されてはいかかかということをございます。

それから、海港都市づくり研究会という、経済団体でつくりました研究会で、この春に提言を出しております。三宮駅中心の提言ではありますが、コンセプトにかかわるようなことがたくさんございますので、ぜひいま一度関係者の皆さんに、見ていただいて、取り上げてもいいなということがあれば取り上げてほしいと思えます。

例を言いますと、先ほど小谷先生がおっしゃったパーソントリップ調査がございました。三宮のところを、パーソントリップで見れば、東や北のほうへは余り人が行っていません。「現状はこうです」で終わったら意味がないので、回遊性を高める、面で受けとめる都心であってほしい、点ではなくて、面であってほしいというのが私どもが前から言っていることでもあります。そうすると、東や北のほうは何とかならないのかと思えます。そうすると、三宮駅の北側の駅広はどう考えればいいのかとか、あるいは、東のほうにもっと人を回すためには、我々の提言に入れていますが、例えば、「JRは、東口を整備してはどうでしょうか」とか、こういう話があります。そういう話は、思いつきであったとしても、やはり資料6には入れておいてほしいと思えます。

もう一つは、先ほどの「まちづくり」という意味で、基本的に、回遊性を高め歩行者を主人公にするというコンセプトになるならば、例えば、三宮周辺で、駅ビルを含めて、再開発的ビルの建設が行われるならば、立体的に空間をとらまえて、立体的・区画整理的に、お店をある程度動いていただくことも含めて、正面の空間をもう少しクリアにして広くする。今ごちゃごちゃしているということがありますので、例えば、フラワーロードのガード下の部分は、東西の両サイドをもう少しクリアランスをとってはいかかかなと思えます。そのためには、新たなお店を呼んできて、店舗の床面積ばかり増やすのではなくて、立体的に整理して動かすという、そういう整理をして空間をつくり出していくという手法、つまり容積率や建ぺい率をブロックで見て、それによって活用できる空間や緑地等を生み出すという手法も入れて、歩行者が回遊しやすいまちづくりをする。そのために、民間事業者のプロジェクトであっても、市が調整力を発揮して、こういうまちにするために、みんなで力を合わせてやるんだということをぜひ強調していただきたいと思えます。

○会長

1点目、今の状態をスパッと切ったイメージではないかというご指摘です。例えば、事務局のほうでされたSWOT分析というのは、もともとは経営学では、変化といいますか、ダイナミズムを経営の中にどう取り入れるかという手法ではありましたが、まだまだ甘いという厳しいご指摘ですので、事務局のほうで、データ整理も含めて再検討していただけたらと思います。

2点目、3点目は、三宮及びその周辺に関するご意見でした。このエリア別の中でも、三宮については、既に皆さんから随分ご意見もいただいています。特に北や東のあたりとか、あるいは実際に動き始めるであろうときの手法の問題も含めて大変重要なポイントであろうかと思えます。このあたりは三宮構想会議と重なるところでもあろうかと思えますので、事務局のほうでも、そのあたり十分整理されて、またここに新しい形で表現していただければと思います。

○委員

SWOT分析の話が出たので、資料5を見ていまして、こういうふうに「強み」、「弱み」と分けるべきものなのかと思えます。例えば、「日本の誇る三大夜景」と書かれていて、これが「強み」といっていますけど、実際には活用されていない部分があるから、活用されていない部分からすれば、弱みにもなっているわけです。それから、先ほど交通のお話で、外からのアクセスはいいけど、中の部分が悪いというのは、結局、交通について強み・弱みという部分があるわけですから、そういうふうに整理をしないといけないのではないかと思えます。ですから、こういう単純なSWOT分析というのは、都市・まちづくりにおいて、学生レベルかなと思えます。

それと、資料3に書かれている「主観的なデータに基づく方向性」についても、一番上に「歩いて楽しめるまち」と書いていっていますが、これもプラス・マイナスがあると思えます。それから、2番目の「独自の景観」という部分に関しても、前回の会議の資料2の一番下に「三宮のスカイライン（建物の高さ）が揃ってない」という悲観的な意見も出ているわけですから、常に一定の事項についてプラス・マイナスがあって、その部分のどこを重点的に「未来の姿」の中で伸ばしていくのかという議論をここでしないといけないのに、このSWOT分析だと、「これはいいんだからそのままでもいいじゃないか」とすべてオーケーみたいな話で進みそうな感じがしていて、非常に危機感を覚えています。

ですから、そういうことで、資料5についても、こういうふうに単純化されているというのは非常に問題で、逆にいうと、資料6の図に書かれている、例えば「景観」についてはどうかということ、それから「にぎわい」についてはどうかということをちゃんとSWOT分析されて、全体としてやったらいい話で、各個別の地域に分けるという手法はいかなものかと思えます。

だから、資料6を見ても、資料3を見ても、資料5を見ても、どんな資料を見ても、何

か単純化されすぎていると思います。項目ごとに強み、弱みをきちっとはじき出した上で、これとこれを都心部の未来の姿としてこういうところを特徴的にとらえるべきではないかというような議論の方向に持っていかないとならないのに、この資料のままではわかりませんし、先ほどおっしゃられたとおり、将来ビジョンについても、これは神戸市全体の話をやっているの？という話にも思えます。都心部の強み、例えば、景観の部分ではこういう強みがあって、弱みはこういうところだというふうな分析の仕方に変えて、もう一度やり直さないと、これはまずい話だと思います。

○会長

都心の位置づけが、一般論にかなり近くなってしまっているというご指摘をいただきました。SWOT分析は、ある程度仮説を持ちながら作業をしていくのですが、そのあたりのプロセスがちょっと甘かったのではないかとご指摘かと思えます。事務局のほうで、今日の議論も踏まえて再整理をしていただくというようなことでお願いしたいと思えます。先ほどのご指摘は、もう少し緻密にということか、ロジックを明確にということご指摘でもあったかと思えます。

○委員

もう既に、ご意見が出ていますけれども、資料3の特にキャッチコピーの部分が「都市」になっているのが、まずどうかなと思いました。我々は「都心」の議論をここですようとしているので、まずこのキャッチフレーズの「都市」を「都心」にして、そして、この中に、前段としては全体像を触れないといけないのかもしれませんが、もっと都心に特化した形でコンセプトの文章をつくってもいいのではないかと感じました。そうしないと、我々のゴールが、神戸全体を話しているのか、都心を話しているのかがちょっとあいまいになりはしないかということをお今の段階で申し上げておきます。

それから、SWOT分析の観点から、特にデザイン、景観にかかわる部分について申し上げますと、強みは同時に課題であるとも思っています。強みというのは、今後維持すべきあるいは発展すべき課題だと思っていますし、弱みに関しても、一定いい部分もあるけれども、今後より一層強化するということで課題を含んでいるものとしてもとらえております。デザインにかかわる話としましては、先ほど夜間景観に関してはご意見がありましたが、特にいい点として、「コンパクトでまとまりのあるまち」というのが、この神戸の都心の一つの大きな特徴のような気がしています。

そこで、資料6でエリア別に整理いただいておりますが、新神戸から特にウォーターフロントまで含めたエリアというので課題を整理していくのは一つの視点かと思えますが、実は都心を考えるとき、これはそれぞれのエリアを点だと考えれば、それをつなぐネットワークというのが一つ枠組みとして入ってこないといけないのではないかと思います。さらにその上に点として都心全体を考える面——システムであるとか、ソフトであるとかということになるかもしれないですし、ネットワークに関しても、ハードなもの、ソフトなもの

の両方を含むと思います。そのことによって、今回は特化して神戸から北野、三宮などを取り上げていますが、それ以外にもさまざまなまちづくり協議会があって、さまざまなまちづくりが行われており、デザインの点でもさまざまなことが検討されているということをいかにつないでくのかというネットワークの点が大事だと思います。

そのネットワーク自身は、ひょっとすると、この「景観」や、「にぎわい」、「交通・回遊性」などという枠組みをまた同時にネットワークするもの、要するにエリアのネットワークではなくて、概念のネットワークとしてとらえるというような表が一枠が要るのではないかと思います。そのように考えないと、全体のシステム的なイメージと個別の空間的イメージが乖離するような感じがあります。特に最初に戻りますと、「コンパクトでまとまりがあるまち」、この物理的なよさをさらに強くするには、そのネットワーク、ハードとソフトの両面で要るのかなと思います。そして、なおかつ、そのネットワークが、「景観」「にぎわい」「交通・回遊性」「環境・福祉」「観光・文化」「産業」みたいなものを同時につないでいくんだという形で整理するのも一つの考え方としてあるのかなと思います。こういったことは、視覚化するのは難しいと思いますので、視覚化までは求めないとしても、そういう考え方もあっていいのではないかと思います。

特にその点をつなぐネットワークを私の専門のデザインの点から申しますと、課題でも挙げられていますが、景観的な配慮というのがハードな点では必要かと思います。建物のハードな点というのもありますけれども、同時に、道路、歩行者道あるいは街路樹を含めたオープンスペースあるいは潤いの場が連携していくことによって、場所がつながっていくということも考えられるのではないかと思います。

○会長

資料6はマトリックスになっていて、非常に明快で、わかりやすいのですが、これがどう結びついているのか。空間的にもそうですが、ハードウェア、ソフトウェア、もっといえばヒューマンウェアも含めたそういう結びつきのありようがどうもここではうまく表現されていないのではないかというようなご指摘であったと思います。具体的には、道路、街路樹、オープンスペース、そのあたりがハード的にはつなぎ目といいますか、ネットワークの非常に重要な結び目になるのだろうというようなお話だったと思います。

○委員

先ほどおっしゃられましたように、この都心という位置づけ、神戸の中で都心という広がり、広いといえば広いし、狭いといえば狭い。これに都市構造上どういう役割を持たせる場所にするのかということが一つあると思います。神戸の場合、地形的な条件や、歴史的な条件で、六甲山の裏側にはニュータウンと田園地域もありますし、東側には大阪に通勤しているような住宅地もありますし、西側には地域の産業と暮らしが一体になったところもあります。そういったさまざまなエリアを持つ中で、神戸の都心というのは、イメージャブルに神戸を発信していくような場所であり、外から来た人がまずそこに到達して、

「あっ！神戸」と思うような、そういう対外的な役割が一つあると思います。もう一つは、都心として、今言ったさまざまな場所の中心としての役割もあると思います。そういう意味で、このコンセプトは、生活タイプの感じがするので、「都市性」と言うか、もう少し対外的発進力のあるようなコンセプトでもいいのではないかと思います。

そうは言いつつも、さっき回覧されたものを見せていただきますと、やはり「生活」というものが、神戸では非常に大きな意味を持っていますよ。大阪の都心とか、東京の都心みたいに、単に業務商業地域が集積して、それがどんどんやっているというのではなくて、そこに人が住み、その場所ですべての人とのやりとりがあり、生活を楽しみつつ、人に都市観光を出せるという、それはすごく大事なことです。都市観光を支えているのは、住んでいる人であり、商売をしている人であり、仕事をしている人だと思います。というふうに見ると、それだけ皆さんが自覚しているのに、資料6のエリア別のところに「住宅」とか、「生活」とか、「すまい」とか、そういうものが入っていない。特に今の経済状態からいくと、三宮の都心は、マンションがどう建つかというのが、景観的にも、機能的にも、空間的にもすごく大きな問題だと思います。そういう問題に対してどう構えるのかということは、「都心としてこうあるんだ」ということを言うことによって、マネジメントしていく力が生み出せると思うので、そのあたりは考えるべきではないかと思います。それが1点目です。

2点目は、もう少しマネジメント的な発想があってもいいと思います。さっき静止画のように見えるという意見がありましたが、おっしゃられたとおりで、今は変化の方向を見極めるのは非常に難しいと思います。だからこそ、このエリア別にさまざまな宝石箱をいっぱいつくっていくということはとても大事ですが、それを一定のコンセプトの中でマネジメントしていくような、エリアマネジメント的な発想あるいは都市マネジメント的な発想というものがもっと入ってもいいのではないかと感じます。

3点目は、公共空間をどう使いこなしていくか。これまで、民地は民地、道路は道路みたいに線をたくさん引くのが、近代の都市計画だったり、近代のまちづくりだったと思いますが、これからは、それをうまく重ね合わせながら一緒にプロジェクトをつくっていくという、線を引くのではなくて、引いた線をどう一緒にプロジェクト化していくか、そういう発想がまちを豊かにしていくのではないかと思います。そのような、近代風の線を引きまくるというような整理になっているので、そうではなくて、21世紀型の空間使いこなし型の整理にしていきたいというふうに感じました。

○会長

我々が大きな観点で全体像をつくるときに、今のご指摘は大変重要だと思います。最初の都心の位置づけ、これは先ほどからもお話がありました。エリアマネジメントも、この地域全体をこれから統一化していく上でのソフトウェアのようなものです。また、公共空間の使い方というのは、協働・参画の議論と重なっているのかもしれませんが、一種のヒ

ューマンウェアのような、そんな議論かなというふうに伺いました。

○委員

「未来の姿」という題目なのですが、やはりワクワク感というのがないといけないと思います。このようにいろいろ出していただいているんですけど、ややもすれば、こういう委員会になると、まじめに議論してしまいますので、もっと先のワクワク感みたいなものをもっと盛り込んだほうがいいのではないかと思います。例えば、市長がよく言われているLRTなどがありますが、それを世界初の水陸両用ぐらいにはしてはどうか。それぐらいの発想があってもいいのではないかと。シンガポールでああいうホテルができたり、中国・上海に行って日本に帰ってきたら、日本は寂しいなというところがあるので、もっとざっくばらんに話していったほうがいいのではないかと思います。「ワクワク感」というのがキーワードだと思います。

○会長

この会議でもワクワクしたご意見をぜひとも皆さんのほうからいただければと思います。

○委員

1つは、イベントというものを少し考えてみたらどうなのかなと思います。資料5のS-6ですが、要するに都心にとって、ここに書いてあるイベントがどういうプラスをもたらしているのかということです。これだけ人が来ているということは非常によくわかりますが、この来た人たちがどれだけまちの中を回遊して、まちの中を楽しんでいるかということが、一方でものすごく問題になると思います。もう一度そこをきちんと整理し直して、こういうイベントそのものも、この都心という中でどんなプラスをもたらすものに変えていけるのかということをやらないと、決していいものにはならないと思います。

ルミナリエに関して申し上げますと、人は来ますが、うちの商店街は人が来れません、周りを全部柵が囲んでいますから。果たしてこういうタイプのイベントを続けることが、本当に都心にとってプラスになるのかという観点で見直さないと、決してにぎわいの創出にはならないと思います。

だから、夜間景観の話もそうですが、神戸のまちにどうやって来て、どうやって楽しませるかという観点が、特に都心の中で、今まで非常に欠けています。歴史的な景観があるからそれでいいというのではなくて、そこで何かをさせるとか、そういうことが著しく弱い。例えば、鳥羽の水族館だと、夜泊まらせてそこでやらせています。そういうことが例えば須磨水族園であるかどうか。ウォーターフロントとかでもかかわりがありますけれども、あの第1から第3突堤というあいた場所、それから、今度、多分倉庫の部分もあいてくるとは思いますけど、そこをどうやって使って行って、そこから発信して、それとどう都心を結びつけていくかということになれば、もっとまた違ったことが出てくるとは思います。さっきおっしゃっていたワクワク感というのがここに表現されないと、ちっとも楽しくないです。だから、イベントも、まちに来る人もまちの人みんなが参加ができるようなタ

イブに変えていかないといけない。だから、今、神戸まつりも、ルミナリエも、ビエンナーレも、作り直すと。そういう意味では、ここから発信して、都心にもっと、さらにいうと神戸にもっとプラスになるようなものにつくりかえていくという努力が必要になると思います。

それと、さっきおっしゃっていた三宮周辺の話ですけど、これはちょっと違う部分でして、むしろ三宮から元町を経由してハーバーランドまでという一つの面をつくっていくために、もともとの都心をどれだけ作り直すか。「もともとの都心」というと、言い方が悪いんですが、神戸がもともと栄えてきた過程でいうと、西から三宮まで来たわけですけど、その部分をどう組み立て直すかというのが今、焦眉の急だと思います。そこから先で、例えば、三宮駅の北側であったり、東側であったりは、それがきちんとなっていて、さらに広がっていくのであれば、それは可能だろうと思いますが、それよりも今は、ずたずたになっているそっちをどうやってもう一度作り直すかをきちんと考え直さないといけないと思います。

○委員

この委員会に参加してから、神戸のまちを観光客の目で見直すということで、随分歩いて回りました。しみじみと思うのですが、三宮のやり直しが本当に大事です。今日、コーヒー店で朝ご飯を食べようと思って東口に出ました。東口に出て、どうやったらあそこまで行けるんだということが一瞬ではわからない。あの回りがごみ捨て場なんです。言葉はよくないですけども、自転車がいっぱいあって、初めて来た観光客の感覚で見ると、唾然とすると思います。

そこからまた中央口のほうに戻ってきました。市役所に行こうと思ったら、とても長い行列がある。何だ、あれはと思って、探しに行ってみました。それはすべてパチンコ屋、スロット屋に並んでいる人たちの列でした。駅前にあれだけパチンコ屋がずらっと並んでいるというのは、多分日本の政令指定都市で、ほかにはないのではないかという気がします。

この環境・福祉の中で、「高齢者、身体の不自由な方にやさしいUDなまち」と書いてあります。UDを福祉的な概念でおっしゃるという気持ちはわかりますが、神戸市は、これまで何度も神戸を日本で一番ユニバーサルデザインのまちにしたいとおっしゃっていました。私は、ずっと神戸市に対しては、ユニバーサルデザインは、高齢者、障害者だけではありません、若い人も含めて3世代が楽しめるUDなまちという言い方をしてくださいということをお伝えしていたと思います。福祉ではないんです。むしろ回遊性も観光も含めて、いろいろな年代の人々がそこでいかに楽しく暮らせるかということが大事だと思います。

その観点で見ると、今朝私が見たあの三宮の東口と中央口の風景は、残念ながら、観光客が引いてしまうだろうと思われるものでしかありませんでした。こんなにすてきなまちなのに、余りにももったいないです。そこからバスに乗って北のほうへ行こうとか、北野

へ行こうとか、ハーバーランドへ行こうとかという気持ちが萎えてしまいます。だから、そこをどうしていけばいいのか。

例えば、京都の場合は、景観条例がついに発効しまして、駅前の看板などが今、すごい勢いで撤去されています。ほんの小さなまちの中の看板も赤いものが目立つものはすべて撤去という、そういう状況になりました。神戸市の場合、この景観を守るために、さまざまな業者と闘うことになると思いますけれども、その覚悟はおありなんではないでしょうか。それを考えていかないと、神戸の景観は、夜景も含めて守られないのではないかという気がします。本当に神戸を愛する観光客の一人としてちょっと苦言を呈させていただきました。

○会長

先生の苦言を乗り越えてワクワクする神戸の都心をつくらないといけないと思います。

○委員

神戸の景観アドバイザーをしている関係で、今の質問にお答えします。

まず、最初にございました屋外広告物に関しましては、京都ほど厳しくはないですけれども、普通は大体まちづくり協議会ごとに景観ルールなどを定めるんですが、駅前の5つぐらいのまちづくり団体が自主的に組織化されて、これから屋外広告物を自主的に規制していこうというような動きをされています。ですから、今後に関しましては、もう少し動向を見ていただくということで、一つの動きにはつながっているかと思います。夜間景観に関しましては、神戸の一つの重要な都市のアイデンティティだということを思っておりますが夜間景観だけではなくて、眺望景観も非常に都市の重要なアイデンティティですので、それに関しても、数年前から、眺望景観を大切にすることで、都心地区で一定の高度規制みたいなものがかかることによって、海から山への眺望、あるいは山から海への眺望の見え方みたいなものを、一定の視点場の設定の上ではありますけれども、そういった施策は打っています。

さらに、夜間景観ですけれども、数年前に夜間景観のガイドラインを策定いたしまして、夜間景観についても積極的に取り組んでいるというような事情でございます。まだ条例等が、ルールがつくられてまだ時期もたっておりませんので、それこそ都市は生き物ですから、今後徐々に更新していきながら、ある理想の姿には近づいていくとは思いますが、そのための手は不十分であるかもしれませんが打ちつつあるということで、解説だけさせていただきます。

○委員

都心ということになったら、基本的にはハードウェアの整備ということになってくると思います。それについては、このような100年計画をつくっても、何年かに一度、見直すということを前提にして、今あるものを既成事実としてとらえるのではなくて、こういうふうにしたらどうかということをお先につくって、それにできるだけ近づけていくためには、地元の方と色々な話し合いをしていかないといけないと思います。だから、そういう中

で一つのハードウェアの整備をしていって、そして、その先には、観光客にとっても回遊性があるとか、住民の人にとってもそれが便利がいいということはあると思いますが、そういうのを先にきっちりとつくり上げて、それから、それに向かってどういうふうな努力をしていくかという、我々の世代ではなくて、次の世代の人がどういうふうな引き継ぎ方をしていくかとか、そんなことも基本的には盛り込んでおいたほうがいいのではないかと思います。

それと、300人会議のテーマが、「自分の住むまち神戸」ということで、都心ということではなくて、もっと大きなテーマで話し合いをされていたのではないかと思います。その中から出てきた意見というものは、都心にかかわらない、今自分たちのまちに誇りを持つとか、そんなとこまで話が広がってしまっていて、今日のテーマと少し違うテーマで議論されたのではないかと思います。それを一緒にしているので、どうも話の焦点が絞りにくいということになっているのではないかと。したがって、「都心」ということに考えを置くのであれば、僕が先ほど申し上げたような手順で物事が進んでいったほうがいいのではないかと思います。

パチンコ屋ですが、これはずっと気がついていて、のいてくれないかということはずっと思っていますが、そうするとまたカジノの問題も出てくると思いますし、そのような広がる方が僕は出てくると思います。

○委員

先ほど屋外広告物の話が出たので、居留地のお話をさせていただきたいのですが、居留地では、屋外広告物ガイドラインというものを10年ほど前につくりまして、自主的に運用しています。店舗1件開くごとに全部審査させていただいて、ああでもない、こうでもないやっていますが、さすがに10年たってくると、無茶をする人がいなくなりました。最初のころは随分苦労されたようなんですけれど、やっているうちに、「あそこの協議会はうるさいから、これぐらいにしとこうか」と、最近、皆さん思っておられるようで、大分定着してきたのかなというところがあります。居留地に求められるまちの姿、南京町に求められるもの、北野に求められるもの、全然違うものだとは思っているので、一緒にすることはできませんけれど、それぞれの方向性みたいなものをしっかりやっていけば、そのうち根づいてくるのかなと思います。

例えば、スカイラインの話も出ていまして、居留地でも、道路によって21メートルと30メートルに分かれているのですが、100年たったらそろうだろうというぐらいのつもりでやっています。ビルなので、壊して建てかえろというわけにはいかないですから、100年後そろっていたらいいよねというぐらいのつもりで決まりをつくってやっております。

それから、もう一つ、「港」は、神戸から外せないと思います。例えば、三宮のほうから海を見ても、海が見えません。船が入ってきても、三宮のまちが見えません。2号線と阪神高速の高架がとてもしゃまなんです。すぐどうにかできるものではないとは思いますが

が、あれを取ってくれると随分違うのにとおもいます。海辺とまちをつなぐ人の行き来という面に関しても、あれが随分じゃまだなと感じています。

○会長

阪神・淡路大震災の復興の過程で、道路に関しては、埋め込んでどうかというような議論もあったかと記憶していますが、ウォーターフロントの長期的な展望の中で、あのあたりも議論されているのではないかとおもいます。

○委員

先ほど、観光客の視点でというお言葉がございました。今回、非常に神戸市が頑張っていたいて、神戸が大好きな人の意見がいっぱい集まっているかなというふうに思うのですが、ほかから見てここが不便だとか、こうしたらいいのにとかいうところが、まだまだ情報として弱いのではないかとおもいます。

また、一方で、ほかから来た人が大変便利だと思っていることもあるとおもいます。交通アクセスでいうと、大阪の南のほうから湾岸線で神戸に来て、駐車場にとめてという、大阪に行くよりよっぽど楽だとか、そういうことがある。ほかから来やすいところはもっと整備していく必要があるとおもいます。一方で、不便だと考えられていることでは、電車で目的があってどこかの商業施設へ行こうと思えば、何とか行けるんです。高齢者の方でも行けるんですけど、では、そこから次どこかへ行こうかと思うと、行けません。行けたとしても、三宮から元町に行くのに、暗い地下道がありますが、皆さん、まちに楽しみに来られるということで行くと、ああいうところがまだまだではないかとおもいます。

私どもは元町で商売させていただいておりますが、駅から店舗、あるいは商店街も含めて、なかなか整備が進んでいないという状況もございますので、まちづくりとしては、そういう観点が必要だろうとおもいます。

あと、今回このコンセプトなどを見させていただいて思っていたのが、ここに総体的な数値であったりとか、イメージはあるんですけども、具体的に何を目指しているのかというのがない。わかりやすい例でいうと、県外からの来街者が今、何人いらっしゃっていて、どのぐらいにしたいんだとか、外国人の観光客でも、今どのぐらい神戸に来ていて、それをどのぐらいにしたんだとか。先ほど、ワクワクした、もっとレベルが格段に違うものを考えないといけないと言われていましたけど、これが2割増ぐらいで考えていたらそんなことは出てこないとおもいます。これを2倍にするんだと、2倍にするためにはどんなことが必要なんだというふうに考えると、全然違った観点になってくるとおもいます。その辺のイメージあわせといいますか、目指すべきところ、それから、神戸市の本気度合いがあって、初めて企業なり、そこに住んでいる方も動いてくるとおもいます。イメージでは商売しているところはなかなか動きにくいというのが本音であるとおもいますので、明確にはしづらいいとおもいますが、共有できるレベルのものは出していったほうが前に進みやすいとおもいますし、みんなで取り組めるのではないかとおもいます。

○委員

いろんな議論があっちこっちへ行っているような気もする中で、いろんな施策というのは、商店街や、商業施設等で既にソフトの面でいろいろされているようなことは、自分たちも当然しています。ただ、情報発信が非常に弱いということが、弱みの中にもありました。この辺の共有というのがほとんどなされていないというのが、前々からずっと感じているところがあります。そういったところは何かしらきちっと整備をするべきだと、感じています。

そういったことをせめて都心だけでもちゃんと整備しなければいけないと、もう10年以上も感じているのですが、全然なされていません。これは、神戸市の都心系の商業の会議等でも以前から議論されているはずなんですけども、いまだできていないというのは、非常に大きな課題だと思います。

もう一つは、ハード面でいうと、三宮のセンター街のアーケードは、震災で落ちていすから、きれいになっています。ビルに関しては、サンプラザが一番古くて、50年近くになります。となるとどうなるかというところを、「未来」を考えるということであれば、議論せざるを得なくなってくるのではないのかと思います、駅の真ん前ですので。その建物をどうこうするということは、権利者も山ほどいますので、ここでできる話ではないのですが、そういうことも含めて、「こんなまちになったらおもしろいなあ」という、そんなことをぶっ飛ばして話ができるような絵をかいてみたほうがイメージができるのではないのかと、そういう会議になったほうがおもしろいのではないのかと思います。その後大変な目に遭う方がいっぱいいるとは思いますが、それが多分僕らの世代になってくるんだろうなと思いつつも、そういうところまで踏み込んだ議論をしてもいいのかなと思います。

○会長

大賛成で、ぜひともそれぞれのお立場から自由なご意見をどんどん出していただく、そういう会議にぜひともしたいと思っています。

○委員

この会議が発足したのは、J R、あるいは阪急、この駅ビルの開発から話が出ている点もあるわけです。他都市で見ますと、名古屋駅。どうなりましたかといったら、いわゆる旧の栄という地区が非常に厳しくなってきました。3つの巨大な百貨店がございします。しかし、そのうちの1店舗が、もう間もなく閉館に追い込まれているという事実があります。京都駅を見ても、これも旧来の烏丸に2、3店舗ある百貨店が、数字的には非常に厳しい状況にあります。そういうことで、神戸も、J R、阪急がそういう巨大なものを持ってきて果たしてそれでいいんだろうかということを、第1回目に私は会議の場で申し上げたわけでありまして。J R、阪急にお叱りを受けるかもわかりませんが、そういう視点でもよく考えてやってもらいたいと、思っています。

それから、私は新神戸にいますので、新神戸を皆さんイメージしていただきたいのですが、新神戸駅をおりました、北野町へどう行くのかと、こうなったときに、アクセスがとても悪いです。車でいったら一方通行でありますし、どの道を通ってどういうふうに北野へ行くのかといったときに、なかなか行きにくい。歩行者というか、人優先の交通体系になっていない。例えばフラワーロードの北端に口の字型の交通体系があれば、人が真っすぐおりてきて北野へ行けるとか、南へ下るとかいうことができます。もしあわせて検討いただけるなら、そういうことも考えて、北野－新神戸の回遊性ということもちゃんと検討をいただきたいと思っています。

加納町の交差点も1本だけ横断歩道を引いていただきましたが、ほとんどの方が上の陸橋を渡っていない。長年かかってお願いをしてきた1本の道にどこから人が湧いてくるのかと思うぐらい人が連なって歩道を歩いておられます。こういうこともありますので、加納町の交差点も口の字型に道なりをつくっていただきたい、新神戸もそのようにやってもらいたい、北野町との回遊性をちゃんとやってもらいたいと思います。

三宮駅については、他都市を見て、JR、阪急とも神戸市の場合は責任を持って折衝をやってもらいたい、このように考えています。

○会長

ありがとうございます。

市民代表ということでご出席いただいています。議論を聞いていて、都心を使っておられる立場からいかがでしょうか。

○委員

三宮駅の再開発というのがどのような形で進んでいくのか、また、都心のこの話との整合性といいますか、それが欠けているのではないかと思いました。この点をもう少しうまくかみ合わせていかないと、別の形で進んでいってしまい、この会議が何のためにしているのかということが全くわからなくなると思います。だから、三宮駅の再開発について、もっとこちらのほうに情報が流れてこないといけないのではないかと思います。

○会長

大変重要なご指摘だと思います。三宮構想会議との両輪というふうに思ってやっているんですけども、やはり情報を共有しながら、相互にいい展望といいますか、方向を見出せばいいと思っています。このあたりは、ぜひとも事務局のほうにはお願いしたいと思います。

○委員

資料を見させていただいて、資料の中で「人」というのが出てこないという感覚がありました。もう少しそこに住む人の何かが出てこないといけないかと思っています。それと、「景観」から「防災」まで整理されていますけれど、「防災」のところは白紙です。よく減災文化と阪神・淡路大震災後から神戸市は言っていますので、そういうところを一つ入

れたらどうかと思いました。

○会長

減災・防災については重要な時代ですので、ぜひともご意見をお伺いしたいと思えます。

○委員

先ほどから何回かお話に出ておりますが、駅ビルについては、具体的なことはまだ何も決まっていない状態ですので、こういった会議の議論などを受けた構想に基づいて計画を具体化していくということになるかと思えます。

このビジョンのコンセプトについてですが、若干気になりましたのは、「勝ち負けを競わない独自性・独創性」とありますが、私は、「神戸ってどんなまちですか」と聞かれて、「勝ち負けを競わないまちです」というのはあまり聞いたことがないと思えます。

また、「災害に強いまち」というコンセプトをもう少し入れるべきではないかと思えます。震災のことは載っているんですけども、それが自律性の強さとか絆の強さということには結びついていくんですけども、「災害に強いまちをつくろう」というような神戸のコンセンサスがもう少し入ってもいいと思えます。

それから、「神戸市のみならずその周辺も牽引する都心」というくだりがありますけども、これまでの議論で神戸市域が、例えば、周辺の明石とか、三田とか、西宮とか、その辺を牽引しようという話があったということは認識しておりません。むしろ先ほどからの議論であれば、景観ですとか、そういったことは、神戸市に住んでいる住民以外のほかの地域の人にとっても魅力あるまちにしようというような議論ではないかと思えますので、「周辺を牽引する」というよりは、日本全国や海外から人を引きつけるような魅力ある都心にしようという話ではないかと思えます。

それから、資料6についてですが、これは今までこの会議でいろんな意見があったと思えますが、すべてが載っているわけではありません。何らかの基準で載っている意見と載っていない意見があるような気がして、それが気になります。例えば、「元町」のところで、「三宮駅と元町駅を一体化」という言葉、先ほどもこういったご意見があったと思うんですけど、一方で、三宮駅の東口を整備してはどうかという意見もありました。そうすると、その2つは矛盾すると思えます。そういった矛盾するいろんな意見がある中で、何か載っていて、何か載っていないというのは、作り方としてはどうかと思えます。せっかく皆さんで議論しているのに、誤解を招かないようなまとめ方がいいのではないかと思えます。

○会長

さまざまな意見がある中で、こういう形でまとめていくことで、ご指摘のとおり、いろんな矛盾もあろうかと思えます。お気づきのところはどんどんご指摘いただきまして、事務局のほうで再点検・整理をしていただくということにしたいと思えます。

エネルギー等の観点からございましたらお願いします。

○委員

私が子どものころから神戸に対して持っていたイメージというのは、新しいことがある、先進的なまちだというようなことです。私の専門の環境やエネルギーの領域で見ますと、神戸は、常に先端を走っており、いい技術開発をやって、トライアルをやるということをやっておられました。例えば、少し古いんですが、六甲アイランドの廃熱利用があります。3,600世帯あたりにスラッジセンターの廃熱をうまく使っている。これは今見ても非常におもしろい仕掛けを入れられている。それから、三宮の地下街も、全国に先駆けて地下街を導入されたと思います。また、この資料にもありましたが、東灘の下水処理場でバイオガスを精製していくと、そこら辺も先端的なことを最近やられている。

それで、私をご提案したいのは、観光とうまく結びつけていくことができないかということです。東南アジアの方に、先ほどの下水処理場とか、熱供給の設備とか、そういうものを視察旅行のコンテンツとしてご案内する。そうなりますと、インフラ関係の神戸・兵庫県の企業が潤ってくるということも考えられると思います。観光と神戸の先進的な取り組みというのをうまく結びつけていくのはどうかと思います。

もう一つ申し上げますと、三宮の地下街の話を上申しましたが、設備も大分古くなってきて、今後、設備の更新が予定されるかと思っています。そういう際にも、神戸のことだから先進的なことをやられると思います。それは、地下街のインフラでもあり、なおかつ観光資源にもなるということを提案したいと思います。

○会長

そろそろ時間になりつつありますが、何かこの点だけはということがございましたらお願いします。

○委員

SWOT分析についてご意見もございましたが、実はハーバーランドは、その「弱み」に位置づけられていまして、活用されていないと断じられました。ハーバーランドは、あれも出ていった、これも出ていったというふうな分析のもとに「弱み」と位置づけられていたので、少なからずショックを受けたんですが、最初にご指摘がありました、資料5-23、市内の市電の路線図を見ると、ここにはかつての市電とシティループ、これが色づけされているんですが、現実には地下鉄山手線や海岸線がありますし、あるいは路線バスもあります。ですから、この資料のこの分析でもって、都心部は交通手段がないというふうにとると違うと思います。

新たなものをどんどんつくっていくということも一方でありますけれども、既存のこういう資源をもっと有効に活用しないといけませんし、現実にはそれが機能している部分もあります。そこをどう情報発信して、来られる方にも、あるいは働いている方にも知っていただくか。先ほどのハーバーランドが弱みに位置づけられたことについても、それはひょ

つとしたらハーバーランドとしての情報発信が的確でないとか、あるいは弱いということの裏返しかもしれません。そういう意味で、徹底的に情報を発信するということの一方で、徹底的に情報を受信していただく。要は受けていただかないと利用もしていただけないし、いいところを感じていただけないということがあると思いますので、どういうふうを受信していただくか。いわゆるソフトの問題です。それをきちっと心がけていく必要があると思います。

○会長

SWOT分析については、事務局のほうで見直していただいて、再整理をしていただければと思います。

もしよろしければ、今日はこれで会議を終了させていただきたいと思います。

そうしましたら、事務局のほうにお返しいたします。

○三島都心三宮再整備担当部長

加藤会長、委員の皆様、活発並びに大変貴重なご意見をいただきまして、どうもありがとうございました。

本日、SWOT分析とか、今回の部分が「都心」の部分にもう少し集中したらどうかとか、いろんな意見をいただいておりますので、その辺を踏まえてさらに検討していきたいと思います。その中で、将来ビジョンのコンセプト並びに枠組みについて検討を進めていきたいと思っております。その上で、今回の資料6でございますが、今日いただきましたご意見をもとにこの枠組を練らしていただきますが、まだあいているところも非常にございます。そういうところは、今後、庁内でもワーキンググループを立ち上げてまして検討を進めていきたいと思っておりますし、その場にまた各委員にご意見をお伺いしたいこともございますので、そのときはご協力をお願いしたいと思います。

また、本日言い足りなかった点や発言できなかった点につきましては、事前に配付させていただいております指定の用紙で記入していただくなりしていただいて、ファックスでご送付いただくか、記載のアドレスまでEメールでお送りいただければと思っております。

次回の開催時期につきましては、今後の作業の進捗状況を踏まえまして設定したいと思いますので、決まりましたら、事前にご連絡させていただきたいと思っております。

ここで少しお知らせさせていただきたいと思っております、先ほど配付資料でご説明させていただきましたが、神戸市では、10月4日に市長との対話のフォーラムということで、「市長と描こう都心の未来」と題しましてフォーラムを開催したいと思っております。現在、参加者100名を募集中でございます。募集期間は9月9日（月）までとなっております。神戸市のホームページやチラシをご覧くださいまして、神戸市市民参画推進局広聴課までお申し込みいただくという形になっております。お近くの方でご興味のある方などがいらっしゃいましたら、情報の提供のほうにご協力いただければと思っております。よろしく

お願いいたします。

また、今後、神戸市のホームページの「神戸の都心の「未来の姿」」の中におきまして、本日の『未来の姿』の検討委員会や三宮構想会議の状況、また先日行われました「市民300人会議」などのイベントの情報なども公表していきたいと思っておりますので、ご覧いただければと思っております。

3. 閉会

○三島都心三宮再整備担当部長

それでは、最後に、都市計画総局長の山崎より、一言ごあいさつさせていただきます。

○山崎都市計画総局長

住宅都市局の山崎でございます。

本日は、委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中をお集まりをいただきまして、ありがとうございます。

この会議も3回目ということで回数を重ねてまいりまして、本当にたくさんのご意見をいただきまして、ありがとうございます。

まだまだこれから我々事務局のほうでまとめさせていただかないといけない点がたくさん残っておりますけれども、次回以降、また皆さんにお集まりをいただきまして、さらに議論を深めていただきまして、このビジョンをまとめていきたいというふうに思っております。

本日は、まことにありがとうございます。

○三島都心三宮再整備担当部長

それでは、本日はこれもちまして閉会といたします。

お忙しい中、ご出席をいただきまして、ありがとうございました。